所報

美　濃　市　教　育　研　究　所
第３１３号平成２５年５月２１日発行
電　話（０５７５）３５－２３３４
ＦＡＸ（０５７５）３５－３１３４
e-mail：kyouikuken@city.mino.lg.jp

「未見の我」に出会う旅

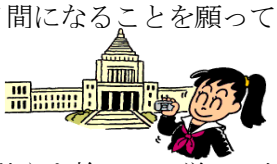
美濃市教育委員会
教育長　　藤川　久男

「未見の我」（みけんのわれ）とは、まだ見ぬ自分のことです。明日の自分か、１週間後の自分か、１ヶ月後の自分か、１年後の自分か、１０年後の自分か、中年の自分か、年老いた自分か、予想もつかない存在です。でも、今の自分はその「未見の我」に責任を負わねばなりません。今の自分の在り方が鏡のように映し発展していくからです。「未見の我」に恥じないような今の自分を創りたいものです。

薫風そよぐ季節になりました。学校では、遠足・宿泊体験学習・修学旅行など、子ども達にとって楽しいわくわくの行事が目白押しです。次の文は、私がM中学校で修学旅行（首都研修）に寄せて、生徒に贈った言葉です。

「本当の自分に出会うこと」と「なかまのしあわせのため」

うれしい首都研修が始まります。心に残る有意義な３日間になることを願っています。
この首都研修で何を学ぶかを端的に言い表すと、
「本当の自分に出会うこと」
「なかまのしあわせのため」
の２つのキーワードになるでしょう。



昔から「かわいい子には旅をさせろ。」と言います。甘えを捨てて、厳しい旅先で自分を見つめ磨いてきてこそ、本当の大人になれるからです。普段の当たり前の生活の中では、案外自分を見つめることが少ないようです。日常の多忙の中では、ついつい自分を見失ったまま時が流れてしまうことが多いようです。家族から支えられているということやその有難みに無感覚になってしまっていることさえあります。だから、遠い地で、じっくりと今までの自分・今の自分・これからの自分を見つめ、「本当の自分」に出会ってくるのです。様々な人へ感謝をするとともに、自分のよさ・可能性・いたらなさと真剣に向き合ってください。そして、これからの自分の進路・生き方について考える３日間にしてください。

今日まで、研修の準備をいろいろ進めてきたことでしょう。係や班の中で、自分の役割を十分に果たしてくれたことでしょう。私たちは何のために働いているのでしょう。「なかまのしあわせのため」なのです。「なかま」とは、自分を含めたつながりと広がりをいいます。親子・家族・班・学級・学年・全校・地域・市民・日本・地球と自分は広がっていくのです。

そのなかまが幸福になるように生きることこそが価値の高い自分づくりなのです。ひとつひとつの活動の裏にある「なかまのしあわせのため」の実現に力を尽くしてください。そのことが、これからのかけがえのない自分の進路・生き方の礎（いしずえ）と彩り（いろどり）になるのです。

巨大都市「東京」の正体は何でしょう。こんなにも人が集まるのはなぜでしょう。その中で力強く働いている人の心の内には何があるのでしょう。高度に進んだ文化とは反対に環境破壊や災害対策や貧困など課題はないでしょうか。首都は、みなさんにとって見るべきもの感じるもの考えるべきものの宝庫です。すばらしい「未見の我」（みけんのわれ）に出会うために精一杯に今を活動してください。

どうか安全で意義深い活動ができますよう願っています。お土産話を待っています。

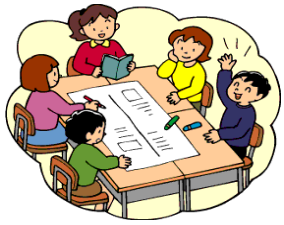
特別活動を中核に据えて取り組む学級づくり

杉田　洋　文部科学省初等中等教育局　視学官

学級づくりは、もはや学級担任まかせではいけないのではないか。学校全体の構想に基づき学年単位などで行う時代になったのだと覚悟すべきだと思う。学校長がその先頭に立って共通の指導が行えるようにする必要もあるだろう。そう考えた場合、最も関連の深い特別活動をその具体的な場として中核に据えることが欠かせない。学力向上の土台となり、また、いじめ問題などの早期発見・早期解消のための土壌づくりとして「学級づくりと特別活動」を取り上げる。

筆者は全国の学校を訪問した際、教室掲示を見るようにいている。学級づくりが一目瞭然だからである。その中で感心することも多いが、問題を感じることも少なくない。とくに、学級目標の内容やその決め方、評価方法などが各学級ばらばらで、その目標を達成するための係活動などの取り扱いも異なり、学校として育てたい生活態度の指導もそろっていないなどの様子が見て取れると愕然としてしまう。

１，特別活動の特質を生かした学級経営



年度当初に、次の三つの特別活動の特質をしっかり理解し合い、学級づくりに取り組む際の基本的な考え方を共通にしておきたい。

○　望ましい集団活動であること（個が否定されたり、劣等感を感じたりすることなく、個が生かされるようにすること）

○　子どもたちの自主的な活動であること。（教師が一方的にしつけたり学級をコントロールしたりするだけでなく、子ども自身がより良い学級生活を送ったり、つくったりすることができるようにすること）

○　実践的な活動であること（知識として教え込んだり、理解させたりするだけでなく、実際の活動を通して、学級によりよい生活や人間関係が築かれるようにすること）

２，学級づくり十の鉄則

次の視点で自分の指導について自己点検・自己評価してみるのも良いのではないか。

①　いつも明るく振る舞い、子どもたちと積極的にふれあうようにするなど温かい雰囲気をつくり、子どもたちに安心感を与える。

②　気持ちの良い挨拶などを大切にし、思いやりや親切な言動を積極的にほめ、人権に反する言動などは厳しく叱るなど、正しい価値観によって生活や学習ができるようにする。

③　安全で効率の良い生活をするためのルールや規則を明確に示し、その遵守を徹底するなど、規律や秩序をつくる。

④　保護者と連絡を密にとり、積極的に情報の発信や交換をするなど信頼関係を深めるようにする。

⑤　個々の子どものよさや課題を把握するとともに、期待し、要求し、励まし、その努力を見取り、価値付けをするなどして、一人一人のよさを伸ばし、少しでも課題を克服できるようにする。

⑥　自ら挑戦することを積極的に奨励し、挑戦した上での失敗を許し、発達の段階に即して指示待ちの体質を変え、子どもたちの自主性を引き出す。

⑦　知・徳・体のバランスのよい学級経営案や指導計画を作成し、子どもの参画も取り入れて教室環境を整え、教科等の指導の充実を図る。

⑧　学習のルールやノートのとり方などの学び方を取得できるようにし、小グループでの話し合いなどの協同的な学び方を身につける。

⑨　共通の目標をみんなで協力して実現する活動に本気で取り組めるようにし、連帯感や仲間意識を育てる。

⑩　みんなに役割や居場所をつくり、積極的に出番を与え、どの子も活躍できるようにし、自分への自信が持てるようにする。

（図書文化　指導と評価　５月号より一部抜粋）

ほほえみ教室から

新年度が始まり１ヶ月が過ぎました。どの子も新たな気持ちでスタートをきり、少しずつ今の環境に慣れてきているようです。ほほえみ教室では児童･生徒の日々の様子を把握し、気持ちに寄り添いながら、家庭や学校との連携を大切に活動していきたいと思っています。今年度も一層のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

適応指導教室　（美濃市ほほえみ教室）

学校に行けない児童生徒のための教室です。さまざまな活動を行いながら子どもたちの心の安定をはかり学校復帰を支援しています。

（開設日時）　月曜日～金曜日　9：00～16：00

（活動内容）　スポーツタイム（週一回）・クッキング（月一回程度）

表現、創作活動、自然体験活動、学習など一人一人のペースに合わせて活動しています。

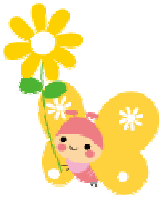
保護者の方には下記のような事業も行っています、是非お知らせ下さい。

・教育相談

不登校、生活習慣、親子関係などに関する相談を受けています。お気軽にご相談ください。

（電話相談）　（０５７５）３５－２３３４　　（来所相談）　※事前にお電話をください。

・親の会



学校へ行きづらいお子さんの保護者や子育てに不安や悩みのある保護者が気軽に話せる会です。わが子をどう理解し支えるか話しあいましょう。

（日時）　毎月第２水曜日　14:00～16:00　　（場所）　ほほえみ教室

☆学校訪問のご協力ありがとうございます

４月から市内の全小中学校の訪問を予定し進めさせていただいています。教育相談担当の先生に学校の様子や児童生徒の様子を教えて頂き、共通理解をはかっているところです。今後も年間を通じて訪問させていただき、子どもの姿の把握に努めたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。

☆心の相談員研修会を行っています（年間１１回予定）

・第１回相談員研修会（4/１６）　講師：五十川　安弘学校教育課長

１つの事例を挙げ、どのような対応をしたら良いかお話をして頂きました。経験にもとづき、まずは相手の話をとことん聞いて受容してあげること。子どもに対しては前向きになる気持ちの刺激が大切であると教えていただきました。

・第２回相談員研修会（5/7）　講師：清水　優子先生

“「自己効力感」を高める教育相談をめざして”と題してブリーフセラピーを生かしたカウンセリングについて具体的にお話していただきました。

☆第１回適応指導推進協力者会議（5/14）

今年度のほほえみ教室の運営に関して、いろいろな立場の方からご意見をいただきました。本人に寄り添い、社会で生きていく力をいかにつけていくかを、学校・家庭・関連機関と連携をとりながら、まずは、今出来る支援から努めていきたいと思っています。

５月１４日　第１回教育研究所運営委員会開催される

教育研究所の運営については、下記の方々を運営委員に委嘱し審議して頂いております。

選出母体	お　名　前
学識経験者	藤井　英幸　様
主任児童委員	村井　康子　様
市連ＰＴＡ	松田　通子　様
校長会	古川　英孝　様
教頭会	加藤　英優　様
教務主任会	塚原　裕司　様

藤川教育長からの委嘱状交付後、委員長に藤井英幸様・副委員長に古川英孝様が選出されました。

今年度の研究所の運営についての説明後、いろいろご意見を頂きました。（抜粋）

・研修講座にもっと多くの応募があるといい。
・実践記録は各学校でも指導していきたい。
・今の子どもには自己表現力や作文力をつけていってほしい。
・Ｑ―Ｕに取り組んでいただいていてありがたい。

平成２５年度の研修講座スタート

研修講座に多くの先生方が希望して頂きありがとうございました。また、夏期の研修につきましては、関市からの合同講座を含め再募集をいたします。（講座の参加者名は各校へメール配信済み）

◎嘱託所員会　　第１回　４月２５日

昨年度に引き続き、井上宏文先生（牧谷小）・山口充代先生（中有知小）・坂本昇先生（昭和中）の３名の方が今年度も引き続き**「Ｑ－Ｕを生かしたいごこちのよい学級集団をつくるために」**を研究テーマに、研究を進められることになりました。また、夏の教育研究会の折りには、市内の先生方に少しでも研究の成果を報告できるように、と実践を進められています。

各校でＱ－Ｕアンケート実施

全国的に実施が広まっているＱ－Ｕにつきまして、美濃市でも２年目となり、各校では、今月すでにＱ－Ｕアンケートを実施されていることと思います。集計結果をどう生かすかが大切になってきます。研究所でも６月２６日には、第１回目のＱ－Ｕ研修会を予定していますが、各校でも主担当者を中心に、有効な活用・分析方法について、研修を深めていって頂きたいと思います。

また、小学校１・２年生につきましては、一昨年度嘱託所員が実施致しました。「アセス」というアンケートがＱ－Ｕと同じような分析ができますので、ご活用下さい。

◎学校所員会・教育実践記録講座　　第１回　４月３０日

４名の学校所員の先生と教育実践記録講座に応募された６名の先生方が、今年度の研究実践記録について、市教委の芝田主査や五十川課長から講話をして頂きました。（参加者から）

・芝田主査や五十川課長さんのお話から、テーマは決めるものではなく、自分の強い思いが持てるもの（困っている、何とかしたい、切実感など）をテーマにすえて、自分がやってみてこうしたらうまくできた、こうしたけどうまくいかなかったという実践を積み重ねて行くことが大切だと思った。
・実践記録のテーマは「今目の前にいる子どもを変えたい」という気持ちなんだと改めて思いました。今年の実践記録を通して自分自身を変えることができたらいいと思いました。

雑感　　～　猿沢の池　～

５月の中旬、奈良の興福寺にお参りに行って来ました。かつて６年生の修学旅行の引率でよく行った猿沢の池の近くのお寺です。国宝の五重塔や西国三十三ヶ寺の札所の南円堂等が有名です。多くの修学旅行生や外国人客とおねだりをするいっぱいの鹿であふれていました。

その興福寺の貫首が４月の中日新聞に、次のような記事を載せてみえました。

「手を打てば　鯉は餌と聞き　鳥は逃げ　女中は茶と聞く　猿沢の池」（唯識道歌）

手を打つという単純な動作、そこから出る音も、鯉は餌にありつけると思って水際に近づいてくるが、鳥は驚いて逃げてしまう。また、女中とは猿沢池畔の旅館の仲居さんだろう、お客のお茶の催促と受け止める。同じ音でも、聞く側によって意味が全然違う。つまり、私たちは皆、互いに相違する認識世界に暮らしている。しかし、どうしたことか、私たちはこの明白な事実が意外に分かっていない。人間関係が絶えずギクシャクするのは、概ねそのためであろう。と、なるほど。

子どもたちや先生方も、それぞれの世界、一人一宇宙を持って生活しているのです。それを理解した上での教育をと、悟ったような気になりました。ただし、私は手を打たれても聞こえませんが。